



# 関原だより

令和6年度3月号  
足立区立関原小学校

## 待つ

校長 吉丸 清昭

「冬来りなば春遠からじ。」もともとは英国詩人シェリーの詩の一部「If Winter comes, can Spring be far behind.」からの出典と言われています。暦上では、2月3日の『立春』を過ぎ、もうすぐ3月5日の『啓蟄』（暖かくなって生物が土の中から出てくる時期）です。学校敷地内の草木や日差しも春の到来を知らせ、学校は今年度のまとめと新年度の準備を始めています。

さて、私達は一つの考えに縛られやすく、「こうであればいいな」という程度の気持ちも、やがては「こうでなければならぬ」に変わってしまうことがあります。学校や家庭においても、担任や親が「こうでなければ」と指示を与え過ぎるのではなく、子どもが自分で考えて行動できるよう「待つ」という姿勢を大切にしたいものです。「考える力」が育てば、知識や経験を組み合わせる柔軟に考え、悩みや困難に立ち向かう力が育つのではないのでしょうか。

また、人は自分のしたことを否定されたり、行動を制限されたりすると、反発心をもつものです。例えば「そんなふうにするからダメなのだ」と高圧的に言われることや、「～しなさい」とか「～してはいけない」という強制や禁止によって、やる気を削がれたことはないのでしょうか。そうした心の動きは、成長の途上でまだまだ教え導く必要がある子どもであっても同じでしょう。

間違いのない正論であっても、それを押し付ければ角が立ちます。すると、相手は「その主張の正しさ」を頭で理解したとしても、心から納得して受け入れることは難しくなります。助言の裏にある「相手によくなってもらいたい」という想いを、よりよく生かすことは難しいことです。

夏目漱石はその著書『草枕』で「*智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。*」と述べています。「自分は正しいことを言っている」という思いは、相手の気持ちや周囲の状況を見えにくくします。親が子に、上司が部下に、先輩が後輩に接する時のように「相手を教え導く」という立場に立ったならば、ことさら冷静になり、相手に対する深い『思いやり』を実際の言動に表すように心掛けたいものです。

勉強でも仕事でも「やらされている」とか「しなければならぬ」と思うと疲れます。しかし、「よし、やってみよう」という気持ちになると、どうでしょうか。大切なことは強制ではなく、相手の心に寄り添って「やる気」を引き出すように働きかけることではないのでしょうか。子どものもち味や豊かな可能性を認め、その成長と幸せを心から祈る。そうした心遣いに基づく助言は、子どもの心に落ち、自分で考える姿勢を培うことにつながることでしょう。

令和6年度も本校の教育活動へのご支援・ご協力、誠にありがとうございました。大過なく終わることができ、子ども達の健やかな成長を図れたことは、保護者、地域の皆様のおかげです。令和7年度に向かって、「自分で考え 自分で判断し 自分で行動できる」子どもの成長を後押しできる所属感、連帯感のある関原小学校であり続けるようにこの3月を過ごしてまいります。

# 3月の行事予定

日	曜	行 事	補習	桐っ子 くらぶ	日	曜	行 事	補習	桐っ子 くらぶ
1	土				17	月	全校朝礼 5時間		
2	日				18	火	B時程		
3	月	全校朝礼 委員会活動		3～ 6年	19	水	B時程4時間 卒業式予行		
4	火		○	2年	20	木	春分の日		
5	水	B時程4時間			21	金	5時間 給食終		
6	木	4時間 安全指導日			22	土			
7	金	児童集会 5時間 6年生を送る会 なかよし給食		3～ 6年	23	日			
8	土				24	月	4時間 修了式		
9	日				25	火	卒業式		
10	月	全校朝礼 クラブ活動 お誕生日給食(3月生)			26	水	春季休業始		
11	火	B時程 5時間 交通安全教室(1, 2, 4)			27	木	あだちからの日		
12	水	4時間 あだちからの日			28	金			
13	木	B時程5時間			29	土			
14	金	B時程 保護者会 4時間(1～3, 青) 5時間(4～6)			30	日			
15	土				31	月			
16	日				※今月は予告なしの避難訓練があります。				